

令和7年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

愛媛県立川之江高等学校

1 取組の目的

- (1) 生徒・教職員が地域の地理的特徴を理解し、災害に対する危機意識を高め、自他の命を守るために主体的に行動できる能力を身に付ける。
- (2) 南海トラフ地震や土砂災害、火災、高潮など、地域において想定される各種災害の発生メカニズムと被害規模を把握し、自校や地域社会における具体的なリスクを理解する。
- (3) 災害時に求められる学校の役割を理解し、講演や演習、実動訓練を通じて、教職員・生徒の防災に関する資質を向上させ、自ら考え、判断し、行動できる防災リテラシーの実践力を高める。
- (4) 学校安全計画・危機管理マニュアルを見直して、生徒・教職員に周知し、各々の視点で取り組むことができる実践的な防災教育・訓練を実施する。
- (5) 地域の防災関係機関や自治体などと協働し、情報共有や役割分担を明確化することで、学校を中心とした地域防災力の向上を図る。
- (6) 実施した防災教育の効果や訓練の成果を定期的に評価し、問題点や課題を明らかにすることでプログラムを継続的に改善する。

2 取組の内容

- (1) 4月16日（水）第1回防火・防災退避訓練の実施（全校生徒対象）

地震発生で火災を想定し、避難経路の確認や教職員の役割を確認した。



- (2) 5月2日（金） 防災非常食倉庫の確認

次年度以降は、2階以上にある空き教室を利用して、浸水被害対策を実施したい。



- (3) 5月28日（水）、11月12日（水） Jアラートによる訓練（全校生徒対象）

Jアラートの放送に合わせて、安全確保行動の実践を行った。



- (4) 6月18日(水)、11月5日(水) 緊急地震速報による訓練(全校生徒対象)
緊急地震速報の放送に合わせて、安全確保行動の実践を行った。



- (5) 7月7日(月) 川之江防災クラブ発足会に参加(川之江高校会議室)
メンバーの顔合わせや年間計画の確認をした。本校からは6名の生徒が入会した。



- (6) 7月10日(木) 本校体育館にて第1回防災講演会の開催(1年生対象)
大分県の日本文理大学人間力育成センター長の高見大介先生を講師に招き、「防災・減災・被災地ボランティアにおける意義と意識改革」をテーマに講演していただいた。この講演会では、「被災しても絶対に諦めないこと」を学んだ。



- (7) 7月11日(金) 第2回防災退避訓練の実施(全校生徒対象)
事前予告なしで火災を想定した訓練を行った。事前予告なしだったが、生徒は冷静で真剣な態度で行えた。



- (8) 7月15日(火) 第1回川之江防災クラブへ参加(川之江ふれあい交流センター)
「地域防災リーダー入門」をテーマとして、リーダーの役割、コツ、行動の取り方などを教えていただいた。



(9) 7月18日(金) マイタイムラインの作成(全校生徒対象)

夏休み期間に家族で話し合いをして、充実した内容のマイタイムラインを作成した。
完成したものは、ロイロノートで提出させた。



(10) 8月5日(火) 第2回川之江防災クラブへ参加(川之江コミュニティセンター)

この日は、「住んでいる地域の理解」をテーマに地域の災害危険を知ることの重要性、災害危機調査方法、防災マップの作成方法などを学んだ。



(11) 8月6日(水) 第3回川之江防災クラブへ参加(川之江コミュニティセンター)

この日は、「川之江小学校・川之江北中学校周辺のまち歩き探検、防災マップの作成」をテーマに自分、地域を守ることを主体とした調査、川之江高校への一斉避難時の導線探索を行った。



(12) 8月18日(月) 緊急地震速報受信システムの導入(事務室へ設置)



(13) 9月9日(火) 第3回防災退避訓練の実施(全校生徒・保護者対象)

地震を想定し、緊急地震速報受信システムを利用した予告なし訓練を体育祭のときに行った。生徒・保護者ともに、教職員の誘導指示に従い行動していた。



(14) 9月22日(月) 救助袋の交換に伴う訓練(教員による実践)



(15) 9月22日(月) 第4回川之江防災クラブへ参加(川之江高校会議室)

この日は、「避難所運営・施設利用計画」を目的としたHUGゲームを実施した。生徒たちは、地域防災クラブの方々と建設的な意見交換を図り、よりよい施設利用計画案ができあがった。



(16) 9月30日(火) 文化祭にて防災に関する啓発活動の実施

防災グッズの展示と体験を通して、防災意識向上に繋げることができた。



(17) 10月4日(土) 令和7年度 四国中央市総合防災訓練(川之江地区)に参加

今年度、川之江地区において市の総合防災訓練が実施され、本校を会場として開催した。全校生徒が参加し、さまざまな訓練や体験を通して、防災意識のさらなる向上を図ることができた。



- (18) 10月17日(金) 第5回川之江防災クラブへ参加(川之江高校武道場)
この日は、「避難所設置運営の実践」をテーマに生徒自らが積極的に活動できた。



- (19) 10月26日(日) 第29回 愛美会まつりでの川之江防災クラブによる啓発活動
燧灘防災会と川之江防災クラブが協働して、防災啓発の発表を行った。



- (20) 11月5日(水) 第6回川之江防災クラブへ参加(川之江高校 第1・2教棟)
この日は、「災害発生時に道路が通行不能となった場合を想定し、代替経路の確認および適切な判断を行う訓練」をテーマに校内を歩きながら危険箇所など把握するとともに、避難経路の確認をした。



- (21) 11月18日(火) 本校体育館にて第2回防災講演会の開催(1年生対象)
今回の防災講演会では2部制に分けて実施した。第1部では、燧灘防災会会長の大西忍様を講師に招き、「川之江地区で起こりうる災害と対策 ～経験から学ぶ防災・減災の知恵～」をテーマに講演していただいた。過去の日本における大規模災害の映像やデータなどを基に川之江地区でどのような災害が想定されるか詳しく学んだ。第2部では、四国中央市消防署員の方々による負傷者の搬送法についての講演を实践も交えながらお聴きした。



(22) 11月28日(金) 第4回防災退避訓練の実施(教職員対象)

浸水を想定した訓練で、保存食を迅速に3階の教室へどのくらいの時間で搬送できるのかを実地確認した。



(23) 12月2日(火) 第7回川之江防災クラブへ参加(川之江ふれあい交流センター)

この日は、「ボランティア活動の地域防災における重要性」をテーマに映像やデータなどを用いて学習した。

(24) 12月11日(木) 第5回防災退避訓練の実施(小中高合同避難訓練)

地震に伴う津波を想定した避難訓練を、川之江小学校・川之江北中学校と合同で実施した。避難場所を川之江高校とし、地震発生後は中学生が小学生を迎えに行き、高校生が小・中学生を迎えに行く体制で訓練を開始した。川之江高校到着後は、起震車体験、消火訓練、ロープワーク訓練、搬送訓練、煙体験の5つのブースに分かれ、防災体験および各種訓練を行った。短時間の設定ではあったが、小・中・高校生の全員が真剣に取り組んでいた。教職員からも好評を得ており、次年度以降も継続的な訓練として発展させていきたいと考えている。



(25) 12月17日(水) 第6回防災退避訓練の実施(全校生徒対象)

この日の訓練は、シェイクアウトえびめへ参加した。本校は、安全確保行動の実践のみの訓練となったが、全校生徒が真剣な態度で迅速な行動ができていた。



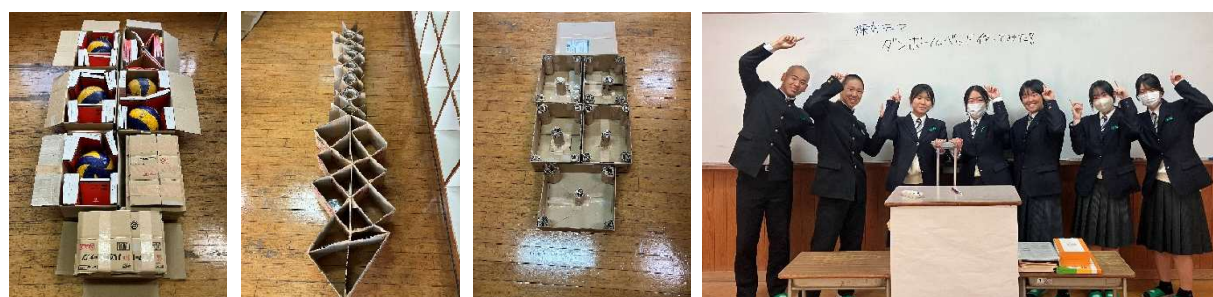
- (26) 12月19日（金） 今年度の事業の取組に関するアンケート調査を生徒に実施
アンケート結果をみると防災意識の向上が顕著に見られた。

＜防災教育に関するアンケート＞

防災意識が向上したか			
強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
48%	44%	5%	3%

- (27) 1月13日（火） 総合的な探究の時間で防災に関する班を結成（1年生）

この日から毎週1時間、「段ボールベッドの最適構造の探究」をテーマに設定して、3つの異なる段ボールベッドを製作し、強度や作りやすさを比較ポイントとして検証を行った。この結果、強度と製作時間の両立が困難だと判明した。今後は、この知見を生かし、避難者の体格や物資の量に応じて3つの構造を使い分ける「適材適所の製作プラン」を提案していきたい。



3 取組の成果

本年度は、これまでの本校の取組と再点検し、その反省点をカバーするべく年間を通して計画的かつ継続的に防災教育・防災訓練を実施した。その結果、生徒一人一人の防災に対する関心や当事者意識が高まり、災害を自分事として捉え、主体的に行動しようとする姿勢が育まれた。特に、防災退避訓練、防災講演会、地域防災クラブへの参加を組み合わせることで、知識の習得にとどまらず、実践的な判断力や行動力の向上につながった。

防災退避訓練については、地震や火災、浸水など様々な災害を想定し、予告なし訓練や障害物を設置した訓練を取り入れることで、実際の災害時に近い状況での対応力を養うことができた。特に緊急地震速報受信システムの導入後は、速報を聞いて即座に身を守る行動や避難行動に移る意識が定着しつつあり、教職員においても危機管理意識の向上が見られた。

また、川之江防災クラブへの継続的な参加を通して、生徒は地域の災害特性や防災活動の実際を学び、防災が学校内だけで完結するものではなく、地域と連携して取り組むべきものであることを理解するようになった。防災マップ作成やまち歩き調査、避難所運営訓練（HUG+実践）などの活動は、生徒が自ら考え、判断し、行動する力を育成する貴重な学習機会となった。

中でも、川之江小学校・川之江北中学校と合同で実施した避難訓練は、本事業の大きな成果の一つである。小・中・高それぞれの立場や役割を意識しながら避難行動を

行うことで、生徒は自分たちが地域の中で果たすべき役割を具体的にイメージすることができた。年齢や発達段階の異なる児童・生徒が同じ空間で避難することで、声かけや誘導の重要性、弱い立場の人を支援する視点が自然と育まれた点は非常に意義深いと考えられる。合同避難訓練は参加校からも高い評価を得ており、地域全体の防災力向上につながる取組として、次年度以降も継続していきたい。

さらに、年度末に実施したアンケート結果からも、防災意識の向上が数値として明確に表れた。「防災意識が向上した」と回答した生徒は9割を超え、今後の防災訓練等の継続についても多くの生徒が肯定的に捉えている。これらのことから、本校の一連の取組は、防災意識の向上と実践力の育成において一定の成果を上げたと評価できる。しかし、1割弱の生徒の意識の向上が課題として残っており、今後は取組内容を見直し、生徒がより主体的に参加できる工夫を行い、防災意識と実践力のさらなる向上を図っていきたい。

危機管理マニュアルは、令和4年10月に文部科学省の「学校の危機管理マニュアル等の評価・見直しガイドライン」及びチェックリストに基づき改訂していたが、現在、本校および川之江地域の現状や課題に即して、具体的な行動手順や対応体制を明確化する形で再度見直し作業を進めている。

4 今後の課題

本年度の取組を通して、防災意識の向上や実践的な行動力の育成について一定の成果が見られた一方で、今後に向けたいくつかの課題も明らかとなった。1つ目は、防災訓練や講演会において、参加する生徒の意識や理解度に差が見られる点である。今後は、一部の意欲的な生徒に学びが偏ることのないよう、全生徒が主体的に関われる工夫や、学年や状況に応じた段階的な指導が必要である。

2つ目は、災害時の判断力や応用力のさらなる向上が必要な点である。訓練では想定された状況に対する行動は定着しつつあるが、実際の災害では想定外の事態が生じる可能性が高い。そのため、複数の選択肢から最適な行動を選ぶ訓練や、振り返りを重視した事後学習を充実させていく必要がある。

3つ目は、地域との連携の継続と深化が必要な点である。小中高合同避難訓練や地域防災クラブとの連携は大きな成果を上げたが、単発的な取組に終わらせず、年間を通した計画的な連携体制の構築が求められる。今後は、学校が地域防災の一拠点として機能できるよう、地域住民や関係機関との情報共有や役割分担をより明確にすることが重要である。